

# 中国空軍作戦訓練の新たな課題

漢和防務評論 20180507(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

甘肅省酒泉市鼎新基地に建設された中国空軍の合同戦術訓練センターでは、米軍のステルス戦闘機、爆撃機対処のための戦法研究が行われています。仮想米軍ステルス機は J-20 を使用しています。中国空軍は、ステルス機を探知する手段として、デコイのレーダー基地を多数設置し、米軍ステルス機の電波発射を誘導し、地上レーダーと協同作業を行って位置を把握するようです。かつてコソボ紛争で米軍 F-117 ステルス機が撃墜されましたが、中国は内緒で被撃墜機の破片を入手しようとしていました。

王怡文ワシントン

中国空軍が鼎新飛行場(甘肅省酒泉市)に新たに設立した合同戦術訓練センターの最新の重要課題は、世代の異なる戦闘機間の戦法の研究である。したがって中国空軍は、2機の J-20 ステルス戦闘機を真っ先にこの基地に配備し、各種第3世代戦闘機と輪番で空戦訓練を行い、米軍の B-2、F-35、及び F-22 第4世代ステルス戦闘機に対抗する各種戦法を研究している。これは中国空軍にとっては緊急の課題であろう。すなわちステルス戦闘機に対し如何に対処するか？

第一の問題は、F-22 を如何にしたら発見できるか？である。近年来、中国空軍は、デジタル化された大量のメートル波レーダーを装備した。鼎新基地合同戦術訓練センターにおける訓練は、戦闘機部隊間の訓練だけではない。戦闘機と地上レーダー間の協同も重要な訓練科目である。しかしこれらのレーダーが外部に露出することはほとんどない。

また中国空軍は大量のミリ波レーダーを開発した。彼らは次のように考えている：B-2、F-22 等のステルス性はセンチメートル波(8乃至12GHZ)に対しては有効であるが、8GHZ以下、或は12GHZ以上のミリ波に対しては、ステルス効果が大幅に低下する。電波吸収ステルス塗料の効果には限度がある。現有の吸収塗料が有効な周波数はおおむね8乃至12GHZ以内であり、効果がある周波数帯の幅は狭い、と。

周知のとおり、B-2、F-22 のレーダーは、探知されるのを防止するため、作動させる時間が制限されている。中国空軍は：これらのステルス機に対処する戦法の一つとして：デコイとなる大量の偽装指揮所、偽装レーダー陣地を設置し、大出力電波を瞬時発射する方式により F-22 等の機上レーダー、妨害装置を誘導する。このようにすれば空中の KJ シリーズの早期警戒機、高技術電子偵察機がレーダー信号を探知でき、続いて中国の第3世代戦闘機を F-22、B-2 に指向することができる。

しかしこの方式は実際は容易ではない！

発見できるかどうか？公開された鼎新飛行場の写真を見ると、常に4機のJ-11B  
或はJ-16、J-10B等の戦闘機が同時に離陸している。彼らは編隊で搜索する。  
その中の1号機は敵を発見する役目があり、機上レーダーによるロックダウン  
能力のあるJ-16、J-20等を充て、仮想米軍戦闘機の飛行コースに近く、米軍機  
の高度よりも適宜高い位置に配置する。其の他の3機は、それに近い高度でV  
字型に配置する。

B-2、F-35等の爆撃機、攻撃機に対処するJ-16、J-10B/C戦闘機について、中  
国空軍は次のように強調している：RCS（レーダー断面積）が最も適正な進入角  
と高度を選択する。通常、前半球進入角 $45^{\circ}$ 乃至 $70^{\circ}$ 、後半球は $155^{\circ}$ 乃至  
 $180^{\circ}$ 、高度差2000乃至3000Mが搜索効率が最も良い、と。

全体的にみて、今回墜落した高新3号工程の電子偵察機は、地上及び空中のレ  
ーダー信号をモニターして記録分析する能力がある。平時は隣国（台湾、日本、  
韓国）に対する電子偵察を行う。したがって東シナ海には頻繁に出現する。戦時  
には、米軍のステルス戦闘機、戦略爆撃機のレーダー信号を速やかに探知し、位  
置を測定する。したがって電子偵察機の訓練任務は極めて多忙である。中国国内  
で事故を起こした類似の電子偵察機の通常の訓練科目は後者であった。

以上